

来場参加かWeb参加が選べます



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
Japan Council for Quality Health Care

医療安全と一緒に語る仲間に出会いたい！  
医療安全の実践の力アップを目指したい！  
医療安全を体系的・学問的に考えたい！  
Webセミナーの開催方法を学びたい！



# 医療安全マスター養成プログラム Day1 Day2 7期生募集案内

「学びほぐし」、しませんか  
(2日間の講義収録を使って復習する機会もあります)

学びほぐしとは一度学んだ知識や価値観を意識的に捨て去り再び学び直すことをいいます

## 対象

医療安全に関する基礎を学んだ方

- ・職種は問いません。
- ・下記のいずれかの要件を満たす方を想定しています。
  - ① 医療安全部門の責任者もしくは専従者であること。
  - ② 医療安全対策加算に係る研修(通算40時間以上)を修了済みであること。  
もしくは相当の知識と経験を有していること。

## 日程

10月17日(土)・18日(日)

[1日目] 9時30分～18時

[2日目] 9時～17時

## 会場

来場参加：日本医療機能評価機構 9階ホール  
(東京都千代田区)

Web(ライブウェビナー)参加：ご自宅・勤務先等

## 講師

(敬称略・五十音順)

荒井 俊行 (弁護士)  
笥 淳夫 (工学院大学建築学部建築デザイン学科 教授)  
荒神 裕之 (山梨大学医学部附属病院  
医療の質・安全管理部 特任教授)  
瀧本 禎之 (東京大学大学院医学系研究科 准教授)  
田中 健次 (電気通信大学大学院情報システム学研究科 教授)  
中島 和江 (独立行政法人労働者健康安全機構 理事)  
橋本 迪生 (日本医療機能評価機構 常務理事)  
長谷川 剛 (上尾中央総合病院 情報管理特任副院長)

◇費用、申込方法等、詳細は次頁をご覧ください。

(公財) 日本医療機能評価機構 教育研修事業部 教育研修課

☎ 03-5217-2326 ✉ kenshu@jcqhc.or.jp

🌐 <https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/>

医療安全マスター養成

検索

2020.06.20

定員

50名

8月21日時点で開催は確定  
しております。



〆切は9月7日ですが、定員に達しましたら  
期日前に〆切となります。

費用

- 病院機能評価認定病院、  
又は受審申込済みの病院にご所属の方 60,000円（税別）66,000円（税込）
- 上記以外の医療機関にご所属の方 80,000円（税別）88,000円（税込）  
昼食代を含みます。宿泊・交通につきましては各自でご手配ください。

申込

- 受講料・宿泊・交通費の返金はございません。

ウェブからお申し込みください

- ① 検索サイトで「医療安全マスター養成」を検索してください。  
オモテ面左上に記載されているQRコードからもアクセスいただけます。
- ② 病院機能評価事業ホームページ (<https://www.jq-hyuka.jcqhc.or.jp/>) 内の  
「教育研修>医療安全アドバンスコース」に移動します。
- ③ 「お申込みはこちら」ボタンをクリックし、詳細をご確認の上お申し込みください。



事前課題が  
あります



#### 【開催方法についてのお知らせ】

今回は、来場参加とWeb（ライブウェビナー）参加を併用したハイブリット型で開催いたします。インターネット環境がない方は来場によるご参加、来場参加が難しい方はWebでのご参加をお選びください。（申込み後の変更はできませんのでご注意ください）  
（\*ご注意：ポケットWi-fiの契約容量により通信が保てない場合があります）

科目

オーガナイザー：長谷川 剛

講義ごとにディスカッションしながら学びを  
深めます

	科目・テーマ	講師（敬称略）	ねらい
Day 1 9時30分～18時 顕在化したリスク への対応	◆ 医療の安全とは	橋本 迪生	・プログラムの趣旨を理解する ・医療安全・患者安全が学問として 整理されてきた歴史・背景を理解 する
	◆ 予期せぬ有害事象への、 具体的対応  [知っておきたい基礎知識] ～事例を交えて理解する～		・予期せぬ重大な有害事象への対応 について、複数の目線で知識を整理し 自院の取り組み（マニュアル・指針・ ルールの改訂等）に活かす ・顕在化したリスクに対する、捉え 方や対応策の立て方を振り返る
	・法的観点から	荒井 俊行	
	・臨床倫理の観点から	瀧本 禎之	
	・医療メディエーションと 価値共創	荒神 裕之	
Day 2 9時～17時 予防的安全管理	◆ 施設・環境・設備の マネジメント	寛 淳夫	・建築・環境デザインの視点から、 医療現場におけるリスクを考える
	◆ 医療安全・患者安全 に通底するもの	田中 健次	・工学や心理学等の関連領域にお ける学問的基盤を参照し、医療 安全・患者安全を脅かす事象へ の具体的な解決方法を考える
	◆ 医療チームや組織等 へのレジリエンスの 実装	中島 和江	・複雑適応系の概念を理解する ・医療現場で起こるさまざまな事象 をシステム及び相互作用に着目し て記述する ・レジリエンスの概念を理解する
	◇ 2日間の総括		

## 1. 講師や受講生との対話を大事にしています



組織の規模や地域、立場によっても活動内容や考え方が大きく違うことを感じました。それぞれの立場からの講義内容に対しての意見交換をすることで自分自身の活動に役立つヒントをたくさんもらえました。

☞ 理解を深め多様な視点から考えていただけるよう、講義だけではなく**対話**の時間も数多く設けています

## 2. 医療安全に役立つ専門的で最新の知見を学べます



専門的な講義を受講し大いに刺激を受けました。今まで何となく「改善しなくては」と考えていながらも取り掛かりに悩んでいたのですが、研修を通じて実践の場で取り組むヒントを沢山いただくことができました。講義は超専門的であるのに、即実践に活かすことができ、私にとっては全く新しい体験です。

☞ **レジリエンス**や**医療メディエーション**といった、理解しておきたい重要な理論や考え方を学べます

## 3. 日常で直面しがちな課題へのアプローチが変わります



倫理的な視点で事例を見るようになりました。院内のラウンドも以前より努めていくようになり、上司だけではなくスタッフの意見にも耳を傾けるようになりました。

医療安全の考え方について、物の管理やシステムエラーの点から考えられるようになりました。今後の医療安全は変わらなければならないということを考えさせられました。

複雑系として物事をとらえようとしています。PDCAを回し、実施したことの評価をどのように把握し次につなげていくか、具現化することはとても難しいので、まずは物事の捉え方から変えていこうと思います。

☞ 日常の業務で直面しがちな**倫理的課題**や**法的課題**を紐解くための基礎的なポイントを学べます

## 4. これからの医療安全に必要な学びが見えてきます

倫理学と心理学の本を読み始めました。また、院内でのダブルチェックの見直しに向けて、チームで勉強会を行いました。

記録については「裁判や開示に耐えうる記録を」と言い続けてきましたが、この言葉ではなかなか理解してもらうことができていません。講義で学んだ「法的な視点から求められる記録」について、スタッフが理解できる言葉で教育を考えていきたいです。

☞ 抽象的な概念も具体的な事例を通して学んでいきます。実践の**イメージ**が付き、**今後の学びの方向性**が見えてきます





